



～神戸～  
 天文年間(1532-1555)に神戸具盛が築城した神戸城。江戸時代には、本多忠統が享保17年(1732)に1万5千石で入城し、明治維新まで本多氏の居城となりました。その城下町として栄えた神戸は、参宮街道の宿場町でもあり、歴史の古い街だけあって、史跡・名刹が数多く残っています。  
 また、3月の寝釈迦祭(龍光寺)・7月の石取祭・8月の千手観音開扉(林光寺)など祭礼行事を四季折々に楽しむことができます。

# 鹿鈴 神戸

## 周辺

発行: 鈴鹿市観光協会



- ①②【神戸城跡と神戸公園】  
 神戸城は戦国時代、神戸具盛により築かれ、安土桃山時代の初め(天正8年)神戸家養子となった織田信長の三男信孝によって、五層の天守閣が築き上げられたと言われています。ぐるりと堀がめぐる城郭は東西に500m、南北に300mと言われ、現在は「野面積み」の石垣だけが当時を今に伝えています。神戸城跡を含む一帯は、神戸公園として整備され、市民の憩いの場として多くの人に利用されています。  
 ・近鉄鈴鹿市駅より徒歩15分
- ③④【神戸宗社と石取祭】  
 神館飯野・高市神社が合祀して現在の神戸宗社となり、氏子総代がこの合祀を記念して始めたのが、神戸の「石取祭」です。この祭りは、毎年7月下旬に行われ、大勢の人の熱気と興奮で賑わいます。太鼓や鐘を打ち鳴らし、威勢の良い掛け声とともに各町内を練り歩き、8台の山車が神戸宗社に集まりクライマックスを迎える夏の夜をかざる祭りです。  
 ・神戸二丁目18-28 ☎382-2140  
 ・近鉄鈴鹿市駅より徒歩5分
- ⑤【龍光寺と書院】  
 「神戸の寝釈迦」で有名な天澤山龍光寺。京都東福寺派に属する禅寺で応永30年(1423年) 称光天皇の勅願寺として伊勢国司北畠重を普請奉行に任じて建立させたものです。  
 3月15日前後の3日間は、涅槃図が開帳され、参道には植木市や露店が並び、多くの参拝者で賑わいます。この期間中は、県文化財指定である数寄屋風書院(坐忘亭)が拝観でき、精進料理も楽しめます。また、本堂の裏手に広がる竹やぶと白壁が続く道を歩いてみるのも風情がたっぷりあります。  
 ・神戸二丁目20-8 ☎382-1189  
 ・近鉄鈴鹿市駅より徒歩5分
- ⑥【観音寺と光明真言板碑】  
 元亀元年(1570年)浄土宗として開創されましたが、元応2年(1320年) 銘の「光明真言板碑」の出土により、当時の開創は鎌倉時代と思われる神戸藩主本多家の菩提寺。楼門に「補陀落山」の額がかかり、軒瓦には本多家の家紋が残っています。正面には「思徳之碑」があり、鐘樓の鐘は市内で3番目に古い鐘です。また、3月15日前後の3日間は、県内でただ1つの極彩色で描かれた極楽浄土の絵である「大まんだら」が開帳され、多くの参拝者で賑わいます。  
 ※「光明真言板碑」は、市文化財指定  
 ※礼の辻という道標が移されています。  
 ・神戸二丁目17-9 ☎382-1245  
 ・近鉄鈴鹿市駅より徒歩3分